

歴代実長特別企画!



ジャパン・マレーシア交流プロジェクト

JMEP 番外編

--過去と現在、そして未来へ--

-The precious time we shared with our Best Friends-

【えっ、なんやて? 参加者募集のお知らせやて?】



ジャパン・マレーシア交流プロジェクト 2013~2016 の実行委員経験のあるみなさん、御注目。

このプロジェクトも今年度(2016年度)で5年目、公募制になって4年目を迎えました。...というわけで!一緒に頑張った仲間と思い出を振り返ったり、先輩や後輩の活動をのぞいてみたり、思う存分しゃべりたおす歴代実長特別企画を曾爾で開催します!(歓声)

プロジェクトに関わっていた年数は問いません。同窓会のような気持ちで、懐かしい話を懐かしい場所でもう一度しませんか? たくさんの実行委員の参加を心よりお待ちしております(^_^)

by ゆん、ゆゆ、さつつん

※どうやらこれが実施要項らしい

- 日時○ 2017年3月16日、17日の一泊二日
- 場所○ 国立曽爾青少年自然の家
- 対象○ ジャパン・マレーシア交流プロジェクト
2013 から 2016 の実行委員
- 参加費○ 未定(3000円程度、人数によって変動あり)

おもしろくやな

ポク行こっく



参加したいなあ、と一瞬でも思ったそこのあなたは、「ゆん」まで連絡してください。参加費や集合時間などについての詳細の連絡は、参加者決定の段階でご連絡する予定です。

わからないことやもうちょっと知りたい部分がある方も、参加するか悩んでいる方も、お気軽にご連絡下さい☆

P.S. 基本は「ゆんに連絡」をお願いします。でも連絡先を知らないとか、ゆゆとかさつつんのほうが連絡しやすい人はそうしてもらって構いません(ゆんは傷つきませんのでご心配なく)。



まあええけど

よおイゲアナ
一緒にっこうや



友情出演: オレピニア

オウムガイ

ステゴサウルス

イゲアナ

クササメ

プログラム予定

特別におしえてしんぜよう。

まだ確定ではないけれど、大体のプログラム予定です。



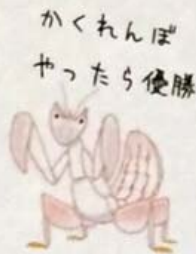
1日目

朝 駅集合
開会、アイスブレイク

昼 昼食
世代対抗運動会
夕べのつどい
夕食

夜 今の自分とプロジェクト
(近況報告てきな)
懐かしの親友に手紙 Time
風呂
フリートーク
なりきりマレー人
思い出の品紹介

※順不同



2日目

朝 朝のつどい
朝食
パネルディスカッション

昼 昼食
ダイアログ

夕 帰る



しめきり: 2/28

どれも充実のプログラム、
楽しい企画が満載です！
みなさんのご応募おまちしております。
ほんまに。

友情出演：プラナリア
ミジンコ
インコ
ハナカマキリ
コウテイペンギン
コンドル
スペースマンジュウガニ
ユン



ほら、足元をみてごらん。。。
わたしたちが歩いた道を思い出そう
(命ん名言集より引用)

三代委員長による ジャパンマレーシア交流プロジェクト 番外編
過去と現在そして未来へ

～The precious moment we shared with our “Best Friends”～



1. ねらい

- ・国立曽爾青少年自然の家主催事業ジャパンマレーシア交流プロジェクト（以下プロジェクトという）2013年～2016年に実行委員として参加した高校生、大学生を集め、学年を越えて交流する機会を持ち、参加者が自分の将来と向き合うこと。
- ・各年度での様子やプロジェクト終了後に感じたことなどを情報交換することでこのプロジェクトの歴史や思いを感じ、プロジェクトに参加したことに誇りを持つ。

2. 実施日

平成 29 年 3 月 15 日(水) ～ 平成 29 年 3 月 16 日(木) 一泊二日

3. 対象者

2013～2016 にプロジェクトに実行委員として参加した現在高校生、大学生

4. 参加者 / 募集定員

20 人 / 28 人

5. プログラム（要約）

プロジェクトの 2014～2016 までの歴代実行委員長が企画したものである。すべての年度において共通したねらいに基づいたプロジェクトに参加したメンバーが、互いに感じたことや一番の思い出などを話し合う機会にしたいという思いから企画した。また、各プログラムに関しても、パネルディスカッションやダイアログ、さらにスポーツ交流など過去にプロジェクトを通してそれぞれに経験してきたことを各年度のメンバーとともに再度行うことで、世代間交流や、考え方、意見の共有や相違に出会う機会を作った。

[スケジュール]

平成 29 年 3 月 15 日(水) 一日目

- 09:00 榛原駅集合
- 10:00 曾爾到着、受付
- 10:30 開会式、アイスブレイク、ゲーム
- 12:10 昼食
- 13:00 スポーツは世代共通
- 15:15 なりきりマレー人
- 16:30 タベのつどい
- 17:10 今の自分とプロジェクト
- 19:45 入浴
- 20:30 フリートーク

平成 29 年 3 月 16 日(木) 二日目

- 07:30 朝のつどい
- 08:05 朝食
- 09:00 パネルディスカッション
- 12:05 昼食
- 13:00 ダイアログ
- 14:30 振り返り、閉会
- 17:30 解散

平成 29 年 3 月 15 日(水) 【一日目】

当日の朝来所した参加者は、緊張した様子もあったが、すでに往路のバスの中で会話が弾んだのか初対面の参加者と笑いあう姿も見られた。

開会式はフランクに始め、笑顔がみられたところでアイスブレイクに移った。ネームトスでは、自己紹介に加えてプロジェクトのなかの一番の思い出を語った。具体的で共感できるような発表が大半であったことから、世代が違ってもマレーシアの高校生との絆が深く心に残っていることは共通していたのがわかった。午後からのスポーツ交流では、大縄や風船リレーを通してともに汗をかき、交流を深めることができた。派遣事業で実際に体験したゲームも出てきて、懐かしさを感じることもできた。



スポーツ交流に続き、なりきりマレー人というテーマで、事前に参加者に呼びかけてマレーシアの民族衣装をもってきてもらい、試着してビデオや写真を撮った。なかには衣装を初めて着たという参加者もあり、少し窮屈だったという感想や、着心地がよい、あたたかいという意見もあった。



夜は「今の自分とプロジェクト」、という題のもと、プロジェクト参加当時から今の自分にどのような変化があったかを語りあう時間をとった。この時間は、参加者それぞれが一番話したいところであったように思う。プログラム終了時間のぎりぎりまで濃度の高い語り合いができた。参加者からは、「実行委員に入った頃は周りとのレベルの差を感じ、くるべきでなかったと感じたが共に活動する中で一生の友に出会えた」や、「進路を考える際の判断材料となった」などの声が聞かれた。また、進学先で新しい扉を開き、学生団体を設立したり、学校での授業態度が変化したりと、プロジェクトを通して学んだことを実際に行動するという形で生かすことができているという報告もあった。全体を通して、積極的になったとかコミュニケーション能力がついたという声も多く聞かれ、プロジェクトへの参加が自己肯定感につながっているということも確認できた。

その後のフリートークの時間では、早朝まで語り明かした参加者もいた。価値観の違うメンバーと話をすることは、とても刺激的なものであったようだ。

平成 29 年 3 月 16 日(木)【二日目】

午前中のプログラムは、パネルディスカッションだった。それぞれの世代のパネラー

が前で議題について話して、YES、NO の意見に分かれてそれぞれの考えをぶつけ合った。「電子書籍はこの世からなくなるべき」「ボランティアは親切の押し売りだ」「トランスヒューマニズムは人類を救う」の3テーマが議題であった。どれもホットな話題で、各世代のさまざまな視点からの意見が飛び交った。大学生の意見の鋭さに驚く高校生の声だけでなく、高校生のしっかりとした意見に圧倒されたという大学生の声もあった。パネラーがファシリテーターをそっちのけでディスカッションを作り上げたり、どの議論も盛り上がった。

午後は、ダイアログを行った。「人生設計」「次世代リーダーに何ができるか」「女子力、男子力って何？」の三つのテーマに分かれて少人数で一時間程度話しあった。これらのテーマは企画者である三代実行委員長による議題であった。

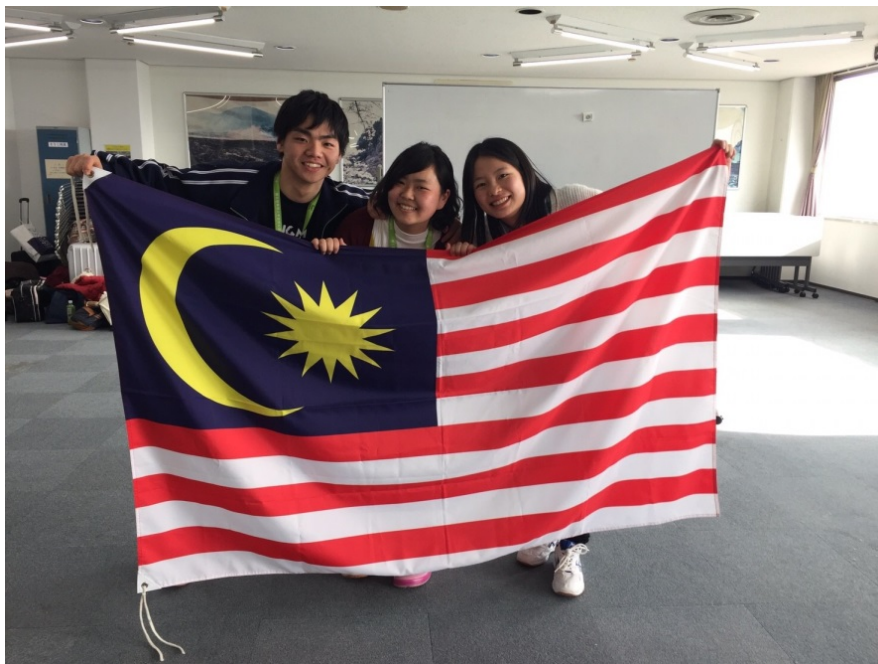
どのテーマも身近なものなので、活発な意見交換を通じて視野が広がった。三代実行委員長それぞれが気になっていた話、議論したかった話題について時間をかけて深く話すことができ、充実した内容であった。



6. まとめ

今回の集まりには、県内の高校生から公募で実行委員会が結成された初年度から今年度のプロジェクトに参加していた元実行委員を対象に行った。企画段階では、参加した頃から時間が経っている人も多くいる中でいったい何人が集まってくれるかという不安は大きかった。それでも、熱い思いを持った元実行委員 21 名が集まり、ともに活動していくなかで今回の参加者それぞれが当時感じたことは鮮明に心に刻まれているということを感じた。実行委員が世代交代しても、プロジェクトへの熱意は引き継がれていた。参加者からも、「年齢や社会的立場が違う者が対等に話し合える場があることは素晴らしい」「懐かしいメンバーとの時間はもちろん、後輩たちとのつながりができたことが嬉しかった」などの声が聞かれ、このプロジェクトの偉大さを改めて感じる事ができた。しかし、当初プログラムとして予定していた、マレーシアにいる高校生との連絡を取る時間を組み込むことができなかった。この部分には、今後の参加者同士の交流に期待したいところである。これらのことから、今回の集まりは、プロジェクト番外

編としての役割やねらいを十分に達成できたといってよい。一日目のフリートークの時間に、プロジェクトの前主担当が来所くださり、参加者に対するメッセージをいただいた。そこで前主担当から述べられた内容は次の通りである。「この事業をやり抜くことは、ゴールではなく、スタートである。まだここでは根っこができたばかりであり、その花を咲かせてほしい」というものである。今回の成功は、それぞれのメンバーが感じてきたもの、作り上げてきたものがあるからこそその成果である。この経験がこの先も私たちの胸の中で根っことして存在し続け、すべての元実行委員がそれぞれの花を大きく咲かせた後に、再びこのような集まりを開けることを切に願う。



(2014 年度 実行委員長 島岡 佑希)